

保育計画成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人あったかたいむ
施設名	なないろ保育園
報告者（役職）	大竹 みえ子（園長）
住所・連絡先	〒961-0829 福島県白河市十三原道上 3-21
	☎ (024)821-8882
	E-mail attaka-time@outlook.jp

○タイトル（保育計画）

絵本は心の栄養

「優しい大人の話し方が子どもの夢を広げ、子どもの豊かな心を育てます」

○主な助成備品

クッションマット、クッションツール、木製ベンチ、木製大型絵本ワゴン、木製絵本棚、木製紙芝居棚、大型絵本、絵本、紙芝居、保育参考書

1. 保育計画策定の目的

当保育園は、平成30年4月に0歳～3歳児の未満児、定員19名の小規模保育園として開園しました。残念ながら広い園庭や大きな遊具はありませんが、近くには広大な芝生が整備された県の施設や公園もあり、太陽の光を十分に浴びながら活動する事ができます。当保育園では、家庭のような温かい環境の中で子ども達や親御さんが安心して利用できるように、木の温もりを大切にしながら保育環境にも配慮しています。

情報化社会を迎えた近年、スマートフォンやテレビ等が溢れ、子ども達もそういった機器に触れる機会が多くなりました。そうした中で家庭でも家族の人と一緒に絵本を読むというような事も少なくなりました。

本園では1日の中で2～3回の読み聞かせの時間を設け、子ども達の心の成長のお手伝いができるよう心がけています。子ども達は絵本の読み聞かせが大好きです。絵本は単に楽しいだけではなく、感情のコントロールの練習に繋がったり、情緒を育てたり、想像力や語彙力を豊かにする役目もあるそうです。まさに『絵本は心の栄養』です。幼児期の脳の発達が目覚ましい時期に、沢山の栄養を与えてあげたいと思っています。なないろ保育園の子ども達が、一生心に残るような絵本と出会ってもらえる場を作っていきたいと願っています。

2. 具体的な実施内容

【クッションマット・クッションスツール】

行事、保育活動の際、子ども達が直に床に座らなくてもよくなりました。



【木製ベンチ】

行事や絵本の時間等で使用しています。



【木製大型絵本ワゴン・木製絵本棚・木製紙芝居棚】

絵本の時間等で使用しています。



【大型絵本・絵本・紙芝居】

行事、保育活動の際に使用しています。



【保育参考書】

発達を促す運動遊び、手作りおもちゃ、保育のアイデア、制作遊び、食育サポート、壁面のアイデア、保育のヒント等の参考書を購入。室内遊びや日々の保育の中でちょっとしたヒントを得ています。

3. その成果と評価

まず、クッションマットの購入により、保育活動において大人数で集う回数が増えました。集会だけでなく1つの遊びを園全体で行う機会が増え、また好きな遊びを見つけてコーナー遊びとして個々の遊びを展開していく姿が多く見られました。友だち同士で共有し合ったりして楽しむ中でも、個々の遊びを大事にしながらも活発に遊ぶ事ができるようになりました。

絵本購入後は、一日の中で子ども達が本に向き合う時間も増え、以前は、朝の会の際に一度の読み聞かせでしたが、加えて給食前や給食後、寝る前など沢山の場面で絵本を読む事ができています。子ども達にとって絵本の時間は『楽しい時間』『大好きな時間』となり、そして保育士達にとっても子ども達と一緒に笑ったり、悲しんだり、沢山の感情を共有できるとても良い時間だと感じました。そしてまず感じたのが、語彙力です。耳や目から同時に入ってきて感じた言葉はすぐに習得する事ができ、すぐに実践しようとしています。場面に応じた言葉のレパートリーが著しく発達していきました。また、集中力や忍耐力も大いに育ったといえます。簡単な絵本1冊でも座っている事が難しかった子どもも、絵本の時間を繰り返す事で、楽しい時間だと気づいてくれる様になり、今では2～3冊を集中して向き合う事ができるようになりました。絵本を選ぶ際も、他児の意見も尊重し合いながら『僕の絵本もいいけど、その絵本もいいよね』等と譲り合う気持ちが育ちました。

そして何より、家庭での絵本の読み聞かせも広がってきています。以前は、「まだ、言葉がわからないから」とお家に1冊も絵本がないという家庭も少なくありませんでした。しかし、保育園で絵本の体験をした事を保護者に伝えると早速購入してくれ、お家での読み聞かせが定着したとの様子を聞く事がありました。「保育園で食べ物の絵本を見ていたら、トマ

トって言ったんです」「○○ちゃん、この絵本が大好きでいつも保育士に読んでと持ってくるんですよ」「少し難しいお話の絵本でしたが、とっても真剣に聞いていました」等、保護者に様子を伝える事でお家の方にも興味を持ってもらい、家庭での絵本のすすめをスムーズに促すことができました。

4. 今後の課題と展望

本園の保育方針の中にもある『子ども自身が伸びようとする力を育み、安全で情緒の安定した生活ができるよう環境に配慮した健やかな育ちを支えます』は、まさに今回の助成事業の取り組みで、保育者の意識も高め、子ども達や保護者も巻き込みながら、より良い保育の実現に配慮できたと思います。

0歳～2歳までの発達が目覚ましい大事な時期に、見る、聞く等の様々な感覚を日常生活の中でたくさん浴びる事ができるよう、保育者一同心がけていきたいと思います。子どもが心をいっぱいに広げた時、いっぱいの愛情で心を込めた保育ができるよう、精進して参りたいと思います。

福島県は2011年3月11日、東日本大震災により多くの命、多くの物、多くの心を無くしてしまいました。そしてあれから9年が経ち、沢山の方のご支援により被災地は前を向き立ち上がろうとしています。こうしていただいた温かい心はどんなものより、大きな声援であり励みです。こうした温かいご支援を子ども達に伝えながら過ごしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。助成事業によりいただいた保育用品は今後、大切に使用させていただきます。

以上